

I o T新時代の未来づくり検討委員会 人づくりWG 高齢者SWG（第3回）

○日時：平成30年1月18日（木）10:00～12:00

○プレゼンター

- ・厚生労働省 愛甲様
- ・株式会社日立製作所 谷口様
- ・岐阜県美濃加茂市 齋木様
- ・三ヶ日町農業協同組合 後藤様、NECソリューションイノベータ株式会社 島津様

○主な議論

【プレゼンテーションについて】

- ・（熟練工の技術継承のためのAI活用について）初めは熟練工の方々の協力をなかなか得られなかったが、一人ひとりが持つ技術の評価から、技術を使った成果に対するの評価に、評価の観点を転換することにより、協力を得られるようになった。
- ・（保育現場におけるノウハウ共有のためのICT活用について）シニア世代の保育士と若い保育士の、スマホ・タブレットでの入力に対する世代間の意識差を感じる。また、日常生活で使っている機器だと、シニア世代でも楽になじめるようだ。
- ・AIによる画像認識だけでは、みかんの木の枝をどう間引くか判断することは難しい。その木のヒストリーの知識がないとそうした判断はできない。
- ・高齢者の生活支援スキームの中で、他の高齢者自身にICT支援を任わせるのは難しい。他方で、シニアがICTの資格を取って小学校で授業のアシスタントをしたり、HPの更新作業をしたりすることにより、役割や居場所ができて、それが生きがいにつながっている事例もある。
- ・高齢者だけのサロンではなく、地域ぐるみで障害者や子どもも巻き込んだ、地域共生の交流の場、居場所づくりが必要である。

【主な論点（案）について】

- ・コミュニティに参加しづらい人へのアプローチのため、テレビの活用は重要。
- ・高齢者の技術のAIによる承継に際しては、承継した技術をどう「共有」するかが重要。
- ・高齢者がどこでICT利用につまずいているか（技術か、心理的障壁か）を考えることが重要。
- ・ICTを学ぶに当たっては、個人情報を出してしまうリスクをセットで教えることが必要。
- ・現在の高齢者と2030年～40年の高齢者では、ICT利用の課題が異なることを前提とした検討が必要。